



新世代モバイル通信システム委員会 の審議再開

総務省
総合通信基盤局電波部
移動通信課

- 5Gのローカル利用や周波数の追加割当て等に向けて、**新世代モバイル通信システム委員会の審議を再開**
- まずは、ローカル5Gの技術的条件のうち、比較的合意形成が得られやすいと想定される、28GHz帯の100MHz幅については可能な限り早期に制度化を図るなど、**合意が得られた議題から順次とりまとめ**

主な議題とポイント（想定）

1. ローカル5Gの技術的条件の策定

- ローカル5Gのユースケースの明確化
- ローカル5G基地局の上限出力の設定
- 隣接周波数の携帯電話事業者と同一周波数の他のローカル5Gとの**共用検討**
- 共用検討に関連し「**上り・下りのタイミングを合わせるための仕組み**」
- 帯域ごとの状況はP.2に記載

ローカル
5G検討作業班

2. 「次回割当て」に向けた共用検討

- 無線アクセスシステム（5GHz、27GHz）や衛星間通信・地球探査衛星（27GHz）との共用検討等

技術検討
作業班

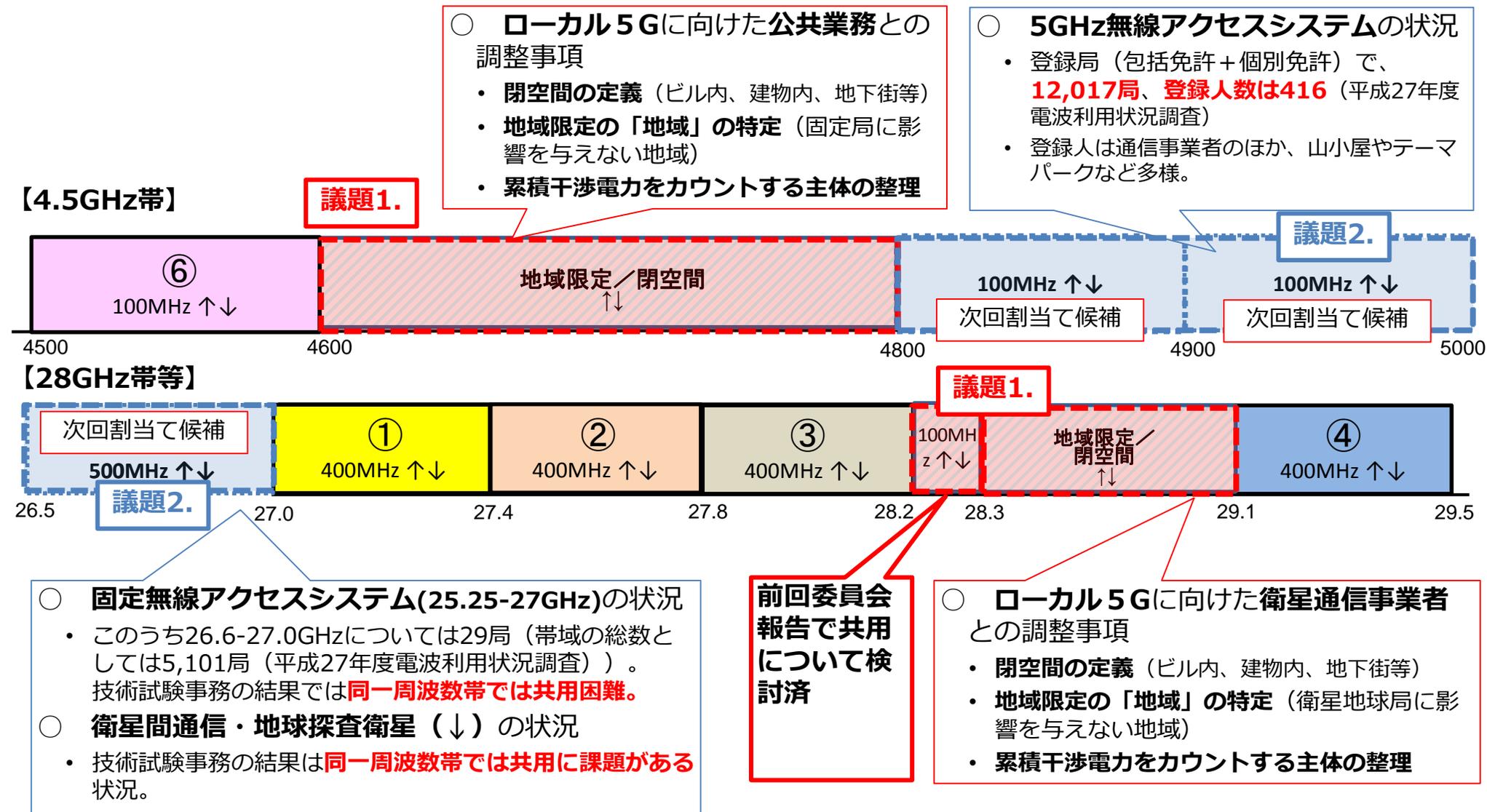
3. 既存の携帯電話事業者の周波数の5G化（既存バンドのNR化）

4. その他

- WRC-19議題1.13の候補周波数帯の共用検討、定期検査のありかた 等

議題1. ローカル5Gの技術的条件の策定

議題2. 「次回割当て」に向けた共用検討



ローカル5G検討作業班の設置

- 今年7月に、新世代モバイル通信システム委員会では、第5世代移動通信システム（5G）の技術的条件をとりまとめ、携帯電話事業者向けに2019年3月末頃に割当てべく、開設指針案の意見募集を行ったところ。
- 一方で、IoTの普及に代表されるように、通信ニーズの多様化が進んでいるため、地域に密着した柔軟な利用環境を提供することを目的とした新たな割当て制度（ローカル5G）を導入することへの期待が高まりつつある。
- こういった状況を踏まえ、ローカル5Gの実現に向けた割当て方法及び技術的条件等の検討をおこなうため、新たに「ローカル5G検討作業班」を設置する。

新世代モバイル通信システム委員会

主査： 森川 博之（東京大学）
主査代理： 三瓶政一（大阪大学）

現在の検討体制

基本コンセプト作業班

主任：三瓶政一（大阪大学）
主任代理：山尾泰（電気通信大学）

ワイヤレスIoTアドホック

リーダー：山尾泰（電気通信大学）

技術検討作業班

主任：三瓶政一（大阪大学）
主任代理：山尾泰（電気通信大学）

ローカル5G検討作業班

（目的）

- ・ローカル5G実現等に向けた課題等について検討を行う

（調査検討事項）

- ・ローカル5Gの割当て方法及び技術的条件
- ・その他の事項

想定スケジュール（最短）（案）

